

地震損壊拡大の危険性は

中越沖地震で木造家屋調査

シロアリ・腐朽菌で劣化

地震による木造建築物の損壊の危険性を高める要因の一つとして、シロアリや木材腐朽菌による部材の劣化が注目されている。二〇〇七年七月の新潟県中越沖地震でも、京都大の研究者が調べた損壊家屋の多くで生物による劣化が認められた。居住者自らが建物を点検することが家屋を守るために必要という。

京大研究者が確認



シロアリの食害を受けていた損壊家屋の柱
(2007年7月、新潟県柏崎市) 森拓
郎京都大助教提供

木造家屋の部材へのや土台の劣化を認め生物劣化は、阪神大震災。このため、同年の災で損壊した家屋でも中越沖地震で、農学研であった。損壊には構造 究科の築瀬佳之助教的な強度不足などさま (林産加工学) と生物さまざまな要因があり、劣化に着目した現地調査による劣化での程度を行った。

京大生存圏研究所の森拓郎助教(木質構造)は、〇七年三月に、約四十棟の建物と刈羽村で損壊のほどを調査した。震度6強で被害が大きかった新潟県柏崎市と刈羽村で損壊のほどを調査した。震度6強で被害が大きかった新潟県柏崎市と刈羽村で損壊のほどを調査した。震度6強で被害が大きかった新潟県柏崎市と刈羽村で損壊のほどを調査した。

「自己点検で発見を」

「ぞ」がシロアリに食い尽くされるなど、損壊の要因となった可能性が高い家屋もあった。

京都や滋賀にいるのは食害の進行が比較的遅いヤマトシロアリで、早期に発見すれば対策は立てられるが、「羽アリが飛ぶようになったら危ないので、早急に対処しないといけない」と森助教はアドバイスする。「シロアリや腐朽菌の被害は、床下やトイレ、台所、風呂などの水回り、雨漏りの場所での危険性が高い。活性化する五月以降に自分で調べれば見つけることができる」という。シロアリ駆除の業者とのトラブルも報告されていることから「まず自分で点検してほしい」と話している。